

精神科

労働を強く意識した精神疾患が急増
プライドと否認に^{たいいじ}対峙する独自治療

医療法人 志仁会

西脇病院

長崎県長崎市桜木町3-1-14 TEL 095 (827) 1187



にしわきけんざぶろう
西脇健三郎^{にしわきけんざぶろう}理事長・院長

1972年大阪医科大卒業、同年長崎大学医学部精神科医局入局、長崎県立東浦病院医局長を経て、82年から現職。漫画「ブラックジャックによるしく精神科編」のモデルとしても知られる

科を^{ひょうぼう}標榜する医療機関にかり、「門前払い」「治療中断」のケースも少なくない。それだけ依存症などの治療は難しく、専門的な知見に基づき、経験豊富なノウハウが重要となる。

特に、近年はサービス産業の拡大もあり、過剰な

もてなしや対人関係のストレスを抱えることから「労働を強く意識して^か懼る精神疾患」

（同理事長）が急増している。日本人が元来資質として持つ「^{きりょうめん}気配り」「^{さじょうめん}凡帳面」「控え

目」で構成されている「執着性気質」が、心身症や気分障害、依存症などの形で現れてくるという。こうした患者はGAF（心理的

社会的、職業的機能を考慮した精神健康度の尺度）の評価基準で70以上の健康度の高い人が多く、高機能精神疾患と呼ばれる。そ

のため「精神疾患プライド」などから自分の病を受け入れられない「否認」の問題が大きく、その対応は経験に基づく治療テクニックが必要になる」（同理事長）。

治療、回復のためには「切れ目ない支援体

要になる」

制の整備が不可欠」で、そのため、西脇理事長は、専門家に向けた提言として①すべての依存症に関わる心構えとスキル②重複障害（特に気分障害圏）も踏まえた治療スキル③当事者グループ、家族会と上手に付き合うスキル、などの重要性に言及する。

例えば、西脇病院では、「リワーク（復職）プログラム」をはじめとする、多彩な活動プログラムを実施し、入院中から退院後まで継続した支援に取り組んでいる。また、アルコールやギャンブル依存症患者やその家族が悩みなどを打ち明け合う「夜間集会」といった集団療法（集団認知行動療法）などを50年以上実施している。

西脇理事長は「最近では夜間集会に参加する人が減少しており、これは大変喜ばしく、誇るべきもの。今はアルコールのAA、薬物のNA、ギャンブルのGAなど多くの自助グループが活動している。そこに参加する人が増えてきたため」と話し「街角から断酒会の連鎖握手の掛け声や、AA、NA、GAの12ステップの朗読が聞こえてくる日常が理想的」と力を込める。



各団体のイベントなどを告知している西脇病院内の掲示板